

国交省

情報化施工の施工者希望型

15年度から試行増

国土交通省は、2015年度から情報化施工の「施工者希望型」による試行を増加させる。これまで「発注者指定型」型を増やし、意欲的に取組む施工者を入札段階

や成績評定で評価する段階に移行する。「マシンコントロール/マシンガイド」(MC/MG、ブルドーザ)の発注者指定型の対象は、情報化施工のメリットをより実感できるよう、従来の施工量1万立方メートル以上から「2万立方メートル以上の工事」に絞り込む。

事における情報化施工技術の活用件数は1114件で初めて1000件を超えた。2013年度に「トータルステーション(TS)による出来形管理技術(土工)」の使用が原則化されたことで、特に一般土木における活用件数が増加した。

このため、15年度以降の試行では、未経験者が高度なノウハウがなくても効果を実感しやすいよう、発注者指定型の対象を絞り込み、メリットを感じる受注者が施工者希望型で情報化施工を採用することを促す。発注者指定型を採用する工事は、MC(モータグレーダ)で施工量5000立方メートル以上、MG(バックホウ)で1万立方メートル以上、TS・GNSS締め管理技術で1万立方メートル以上とする。

特に、MC/MG(ブルドーザ)を盛土敷ならし工で活用する場合、機器を連続的に1カ月以上稼働するためには、約2カ月以上の施工量2万立方メートル以上が必要になる。このため、MC/MG(ブルドーザ)の発注者指定型は、現在の施工量1万立方メートル以上から2万立方メートル以上に試行の対象を絞り込む。

また、試行の対象規模を超える工事であつても、例えば、MG(バックホウ)とMG無しの重機を組み合わせて活用するなど、施工者の創意工夫が生かせる現場を選び、発注者指定型を取り入れるようにする。

【建設ICT】

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 |
| 4. 読売 | 5. 岐阜 | 6. 中伊 |
| 7. 産経 | 8. 静岡 | 9. 伊勢 |
| 10. 中部経済 | 11. 建通 | 12. 日刊工業 |
| 13. 建設通信 | 14. 信濃毎日 | 15. 日本海 |
| 16. 建設工業 | | |